

生産から流通までをつなぐ農業情報ポータル「FarmChat(ファームチャット)」

基本情報

組織名：株式会社ファーム・アライアンス・マネジメント

担当者名：営業部長
小林 和敬 氏

使用 API：

- 青果物市況 API
- 気象情報取得 API
- 農業情報 API
- 病害虫発生予察情報 API
- 1km メッシュ気象情報 API
- 統合農地データ提供 API

開発体制：

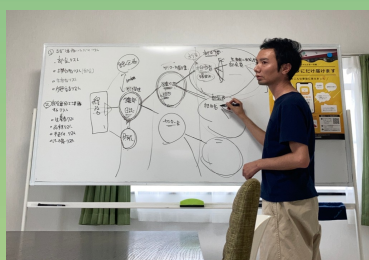
企画/営業：株式会社ファーム・アライアンス・マネジメント
技術担当：株式会社ソフトビル

リリース時期：

2020 年 12 月

解決したかった課題：

- 農業者向けに手軽に農業データを利用できるサービスを提供したい
- サービス利用者の「便利になった！」という成功体験を通じて、IT 導入への心理的ハードルを下げたい



営業部長 小林氏

お問い合わせ先

WAGRI 運営事務局
(農研機構 農業情報研究センター WAGRI 推進室)
sh-wagri@naro.go.jp

■ アプリケーションの概要

農業ポータル「FarmChat (ファームチャット)」は、チャット機能を備えたコミュニケーションアプリ内に、農業現場で求められる情報検索機能、組織運営に必要な管理業務の効率化機能、さらには各種データ連携機能を集約した、総合的な農業情報ポータルアプリです。

■ 開発の背景

私たちはこの 12 年間で、生産情報管理システムをはじめ、さまざまな農業 ICT の現場普及に取り組んでまいりました。しかし、農業者にとって ICT 導入への心理的ハードルは予想を超えるものがあり、広範な普及を実現するには至りませんでした。そこでまず取り組んだのは、「ICT は難しい」という先入観の払拭です。IT リテラシーに関係なく多くの人が日常的に使っているチャットアプリに着目し、その操作感を活かした「FarmChat」の開発をスタートしました。

■ 本アプリケーションの強み

農業分野では依然として電話や紙によるアナログな業務が多く、農業者とそれを支える指導員・普及員の双方にとって大きな負担となっています。「FarmChat」はチャットを中心としたコミュニケーションに、気象・市況・農業検索などの現場情報、組織向けの調査・作付け・収量管理機能を統合した総合ポータルであり、生成 AI とも連携して地域・品目ごとの技術支援や営農相談の自動化にも対応を進めています。現場の意思疎通・情報収集・意思決定を一気通貫で支えることができるアプリです。

■ リリース後の反響について

2025 年 12 月現在、ユーザー数は約 6,100 名に達しています。主に JA などの部会（農業者グループ）における管理業務でご利用いただいています。

■ WAGRI と API の利用によるメリット

主なメリットは 2 点です。一つは、データ管理の負担を軽減できる点。もう一つは、標準化されたコードや書式により他システムとの連携が容易になる拡張性の高さです。



■ 今後のアップデート

2026 年度に向けては、集約・蓄積した農業データを最大限に活用するため、まず生成 AI を「データ活用の出口」として位置づけ、現場ニーズに即した高度な分析や助言を提供できる仕組みを強化していきます。さらに、農地（圃場）と紐づく耕作者情報や作付け情報などのデータを連携・活用することで、地域や品目に応じたきめ細かな営農支援を実現します。

■ 担当者からのメッセージ

多くの農業 ICT サービスは、農業者を支援・管理する立場にある農業団体側の利便性向上に比重が置かれ、農業者自身にとって明確なメリットが十分に提供されていないのが現状です。私たちはこうした状況を踏まえ、「農業団体」の生産性向上に寄与するだけでなく、農業者が自らの営農に必要なデータを主体的に活用できる環境を整えることを重視しています。データ活用に関心のない農業者にとっても、意識せずとも自然と便利さを実感できる いわば「気づいたら便利になっていた」という受動的なデータ活用が可能なサービスの実現に取り組んでまいります。

